

「総合的な学習の時間」

一 総合的な学習の時間研究テーマ

身近なひと・もの・こととかかわり、地域のよさを実感できる支援はどうあったらよいか。

二 研究の方向

青木村は、三方を山に囲まれ、村の中心を浦野川が流れる自然豊かな環境にある。また、国宝大法寺があったり、古くから「義民の里」として有名であったりして、文化や伝統にも恵まれている。このように、子どもたちの周りには「青木の宝」「地域の財」があふれている。しかし、そういった自然や文化、伝統に小さい頃から慣れ親しんできているせいも、それらの存在を当たり前のもので捉えており、素晴らしさを実感していない児童も多い。「ホテル」や「青木義民太鼓」もそうであった。

社会科の「学校のまわり」（3年生5月）の単元で、自分の住む地区の自慢探しをもとにした絵地図づくりをする中で、青木村の自慢のひとつに「ホテル」が挙がった。自主的にホテルについて調べてきた子どもたちの姿から、「青木村のホテルマップをつくろう」（3年生6～7月）を、総合的な学習の時間の単元として設定した。子どもたちは意欲的に本やインターネットを使ったり、家族に聞いたりして調査活動をする中で、生き生きとした表情を見せた。しかし、「ホテルなんて、夏なら、いつでも見ることができるよ。」「めずらしくないよ。」と感じている子どもたちもいた。そこで、「青木自然を守る会」の杓掛会長さんからお話を聞く機会をとったところ、子どもたちから「実際に青木村のホテルを見てみたい」という気持ちが高まり、「ホテルを見る会」を計画した。児童とその保護者が参加した会では、夜空を舞うホテルに出会うことができた。「うわぁ、キレイ！こんなにたくさんのホテルは見たことがない！」「ホテルがこんなに飛んでいるところが、青木村にもあるんだね。」とつぶやく子どもが何人もいた。

青木村の伝統芸能のひとつに「青木義民太鼓」がある。本校にも、義民太鼓保存会に所属している児童もいて、村内のイベントはもちろん、県内外から招待され演奏をしている。しかし、学年があがるにつれて太鼓をやめる児童や、実際に太鼓を叩く経験だけでなく、演奏する様子を見たことがない児童も多い。数年前から、運動会で4年生は義民太鼓を演奏するようになった。そこで、4年生では総合的な学習の時間のテーマを「義民太鼓を学ぼう」（4年生5月～11月）とし、活動している。「青木義民太鼓保存会」の皆様にご指導をお願いして、義民太鼓の歴史を学び、実際に太鼓の演奏を練習させていただいている。練習は厳しく、運動会前ともなると、週に2～3回の練習がある。正直、子どもたちは「疲れた」とか、なかには「もう練習したくない」ともらす者もいた。しかし、運動会当日、大観衆を前に堂々とした演奏を終えると、子どもたちの表情はとても明るかった。運動会後のふり返りカードで、「太この練習はとてもたいへんでやめたいと思うこともあったけど、つづけてよかった。義民太こはカッコいいと思ったし、そんな太こがある青木村がすごいと思ったし、もっと好きになりました。」とコメントした児童がいた。

これらは、自分たちにとって身近な「ホテル」や「青木義民太鼓」とかかわることによって、「ふるさと青木」のすばらしさを実感することができた姿と言えるのではないだろうか。身近なひと・もの・こととかかわることを通して、五感を使って体験したり本物を知ったりしてほしい、青木村を愛する心や誇りを持ってほしい、村外の人々や後世に青木村のすばらしさを伝えてほしいと願い、本テーマを設定し、教師の支援のあり方をさぐってきた。

総合的な学習の時間 学習指導案

1 単元名 「青木村のタチアカネ」

2 単元設定の理由

青木村は、三方を美しい里山に囲まれ、その中心部を浦野川が流れる自然豊かな山村である。また、「義民の里」としても知られ、村民の多くが地域に誇りを持ちながら暮らしている。そんな村で育った子どもたちと共に総合的な学習の時間を始めるにあたり、「青木村のよいところ」を教えてもらった。「山や川があって、きれい。」「虫がいっぱいいる。」「空気がおいしい。」といった発言から、子どもたちも村に対するよいイメージをたくさん持っていることがわかった。そこで、地域の持つ豊かな自然や文化を総合的な学習の時間の題材にすることで、身近なひと・もの・ことに具体的にに関わり、地域のよさをさらに学ぶことができるのではないかと考え、「ふるさと学習」を3年生の総合的な学習の中核に据えた。

1学期の「青木村のホタルマップをつくろう」の学習では、村内各地に生息するホタルを観察したり、地域の方と交流をしたりする活動を通して、子どもたちにとってはあたり前の存在だったホタルは、地域の人々が育ててきた宝であり、これからも環境と共に守り続けていかなければならぬものであるということ学ぶことができた。そして、夏の夜空に舞うホタルの美しい姿を見て、子どもたちはふるさとの素晴らしさを実感することができた。そんな地域の自然や文化に対する関心が高まってきた3年生の子どもたちに、青木村についての理解をさらに深め、地域を愛し誇りを持って生活して欲しいと願い、本単元を設定した。

「タチアカネ」は、青木村限定で本格栽培している新品種のソバであり、子どもたちはその存在については漠然と知っている。この「タチアカネ」を育てる活動を通して、地域の方の願いや、青木村の自然や文化に目が向いていこう。そして「おそばを打って食べたい。」という願いのもとに活動を進めていく中で生まれた疑問や興味・関心から、自ら課題を設定し、主体的に解決しようとするだろう。友だちや地域の人たちと協同的に学習を進め、探求的な学習を繰り返すことで、よりよく問題を解決する力や、自分を見つめ、その生き方について考える素地も養っていききたい。

3 単元の目標

- タチアカネの栽培、観察、作業を通して、自ら見つけ出した課題を主体的に解決しようとすることができる。
- 地域の自然や文化に触れながら、協同的・探求的な学習をすることができる。

4 単元の評価規準

単元の評価の観点	観点別評価規準
活動への関心・意欲・態度	タチアカネについて関心を持ち、意欲的に調べたり、活動したりすることができる。
総合的な思考・判断	タチアカネの育て方や加工の仕方について考えたり調べたりすることを通して、地域の自然環境や文化、生命に目を向けることができる。
学習活動に関わる技能・表現	分かったことや調べたことを記録することができる。
知識を応用し、総合する能力	地域の自然環境や文化に誇りを持ち、守っていこうとする意識を持つことができる。

5 本時案

(1)小単元名 「タチアカネの実を集めよう」

(2)本時の位置 5時間扱い中の第2時

前時：タチアカネの実を集めるためにどんな方法があるか考えた。

次時：実に混じったごみを取り除く方法や、実をきれいにする方法について考える。

(3)本時の主眼

収穫したタチアカネの株を天日干しし、実を集める方法を考えてきた子どもたちが、自分が選んだ方法でソバの実を集める作業に浸りながら、収穫の喜びを味わうことができる。

(4)指導上の留意点

・事前に活動の場のつくり方や道具の準備の仕方を子どもたちと確認しておく。

(5)展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・支援 評価	時
導入	1 活動の場を準備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ実を集めるぞ。がんばって準備しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと一緒にタチアカネや道具を準備し、活動の場をつくる。 	5
	2 実を集める方法を確認し、活動の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・やっと実を集めることができる。楽しみだな。 ・ぼくの方法はきつとうまくいくぞ。 ・上手にできるかな。落ちなかったらどうしよう…。 ・たくさん集めたいな。 ・早くおそばにして食べたいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間計画を伝える。 (確認→作業→11:55 終了→まとめ→片付け) ・本時への思いや流れを確認させることで、活動の見通しを持たせ、子どもたちの意欲をさらに高める。 ・道具の安全な使い方を確認し、注意を促す。 	5
展開	3 それぞれの方法で実を集める。	<p>(棒で叩いて落とす)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりらんぼうにたたくと、実がつぶれてしまうかな？ ・ぼろぼろ落ちて、おもしろいな！ ・葉っぱも一緒に落ちてしまうな。 ・ごみが混ざっちゃうよ。 ・ごみと実をどうやって分けたらいいんだろう？ <p>(手で摘み取る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けっこうたいへんだな。 ・時間がかかるよ。 ・一度にたくさんとるにはどうしたらいいのかな。 ・だんだん入れ物にたまってきたな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの活動を見ながら、即時評価してゆく。 ・作業の途中で試してみたい工夫が出てきた時は、可能な限り認め支えていく。 ・誤った方法や危険な方法で実を落としている場合はアドバイスする。 ・共通の課題が出てきた場合は、必要に応じて活動を止め、全体での話し合いの時間をとる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>対象と関わりながら、収穫の喜びを味わっている。</p> </div>	20

まとめ	4 活動のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実をたくさん集めることができてよかった。 ・あまりたくさん集められなかった。 ・途中だから続きをやりたい。 ・どれだけとれたか、重さをはかりたい。 ・ごみを取ってきれいにしたい。 ・友だちと協力することができた。 ・早くおそばを打って食べたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに、本時の感想(タチアカネ日記)を書かせる。 ・夢中になって活動していた姿や工夫していた姿を紹介する。 ・本時の気づきや工夫、対象への思いについて発表させることで、課題を確認したり、次時(10/27)への見通しや期待を持たせたりする。 	15
	5 活動の場を片付ける。		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと一緒に活動の場や道具の片付けをする。 	

(3)準備品

教師：タチアカネ(天日干ししたもの)・筆記用具・座席表・ブルーシート・カメラ

児童：筆記用具・探検バッグ・学習カード(タチアカネ日記)・クーピー

実を入れる容器・各自必要な道具(マスク・ほうき・ちりとり・ふるいなど)